

3月3日のウクライナ情報

安斎育郎

●ベルリンで雨の中数万人が集会(2023年2月27日)

週末の雨のベルリン。数万人規模の反 NATO のデモ。

国連では(シオニスト帝国主義の主要な駒)usの反対で、当のロシア、ウクライナが合意した注目の停戦案が却下される異常な光景が繰り広げられたなか、ベルリンでは無数の人々が、皆で雨に濡れ、皆で声を上げ、歌い、この汚い代理戦争に反対

<https://twitter.com/i/status/1630167876194672640>



●フランスで「ドンバスを殺すな運動」が NATO 反対行動(2023年2月28日)

フランスの都市、ミラノ、ジェノヴァ、ジローナでは、週末にかけて、StopKillingDonbass 運動の主導で、Donbass の住民を支持し、ウクライナへの武器の供給に反対する行動が行われました

<https://twitter.com/i/status/1630303129739878400>



フランスでは、パリがキエフに供給しているシーザー榴弾砲も製造している軍事会社ネクスターの建物の前で、抗議者がロアンヌとベルサイユに集まりました。

●パリでも平和のための抗議デモ(2023 年 2 月 28 日)

パリで平和のための抗議集会が行われ、抗議者たちはフランスの NATO からの撤退とウクライナへの武器供給の停止を要求した。

<https://twitter.com/i/status/1630300407963742208>



●NATO は敵か？とロシア市民に聞いた(2023 年 2 月 28 日)

当初、『ウクライナの解放』『ナチスへの軍事作戦』を掲げていたロシアは、一年近くを経て『NATO との戦争』との認識を受け入れてきているのか？ 意外な答えも。

<https://twitter.com/i/status/1630487802931707904>



●重要都市アルチョフスクの占領に有利な状況が迫っている(2023 年 2 月 28 日)

ドネツク人民共和国の首長代理によると、縄張りを締めて戦略都市アルティモフスクを取り囲むことが可能になったという。これは、ドンバスでのウクライナ軍の供給を確保する輸送ノードである。

※注:アルティモフスクはウクライナ語ではバムフート

ドネツク人民共和国（DPR）のデニス・プシリン（Pushilin）大統領代理は月曜日、ロシア 1 テレビチャンネルに語った。

「最近、解放作戦の枠組みにかなり顕著な変化が見られた。現在、十字線にあるのはアルチョモフスクの軸である。」

ロシア軍によるヤゴドノエとベルホフカの地域の解放により、アルチョモフスクに近い他の 2 つの地域に向かって進むことが可能になったと彼は説明した。プシリン氏によると、これは敵の周りの縄を締めるための前提を作成する。

切られた道

ウクライナ人によって実行され、民間住宅の洪水を引き起こしたアトリオモフスクのダム爆発的な破壊は、ロシア人の前進に影響を及ぼさないだろう、と彼は付け加えた。

ゴロフカの重要な集塊の北、キエフが支配する地域に位置するこの都市は、ドンバスでのウクライナ軍の供給にとって重要な輸送ノードです。アルチョモフスクの激しい戦いは数週間続いている。

デニス・プシリンの顧問であるイアン・ガギンは、ロシアのメディアに対し、アルティモフスクのウクライナ人グループへの供給は遮断され、都市に通じるすべての道路は制御下にあると語った。



●NHKの編集権とは？報道しない権利？（2023年2月25日）

※あるツイッターの行動報告：NHKに電話しました。0570-066066

何故ミンスク合意が時間稼ぎだったというメルケル発言を報じない？

何故ノルドストリーム破壊のシーモアハーシュ記事を報じない？

〈答え〉は、編集権だの一本槍。

編集権で国民と対立してるつもり？

受信料徴収して放送法の規制を受け公正報道の義務を置いて国民と対立してる。

※関連情報：アルツイッターのコメント：ロシアの歴史を全否定するような特集番組をNHKがやっていたので驚いた。偏見と侮辱そのもの。これが21世紀の日本の公共放送のやることか。信じられない。同じことを日本が他の国でやられたらどうなるのだ。まるで1940年にアメリカが大衆向けに日本の歴史と文化を特集して作った映像のような。

●ブリュッセルでの反戦・反 NATO デモ(2023 年 2 月 28 日)

投稿者コメント:ブリュッセルの反戦(NATO)デモの様子。ちよくちよく演説動画を使わせてもらってるクレア・デイリー氏のツイートより。

<https://twitter.com/i/status/1630248283280146432>



「戦車じゃなくて、外交官を送れ」

●ドイツのラムシュタイン航空地で抗議デモ(2023 年 2 月 28 日)

NATO の連合航空軍司令部があるラムシュタイン航空基地で、ウクライナへの武器供給に抗議するデモ。ノルドストリーム爆破についての調査も要求

<https://twitter.com/i/status/1629823179228315650>



●米国 ウクライナで有毒な化学物質を用いた挑発を実行する意向＝ロシア国防省(2023 年 2 月 28 日)

米国はウクライナで挑発行為を起こす計画を立てている。また、この件でロシアを非難し、徹底的な

調査を行うことを控えるつもりである。ロシア軍の放射線・化学・生物学防護部隊を率いるイーゴリ・キリロフ中將が、このように発表した。

キリロフ氏によると、米国の非政府組織は 22 日、ウクライナでの出来事に関する会議を開催した。その会議の中で、米国のジョン・サリバン元駐ロシア大使が、「ロシア軍が特別軍事作戦を実施しているエリアで化学兵器を使用する計画」について言及したという。この発言についてキリロフ氏は、「この情報は、米国自身とその共犯者が、有毒な化学物質を用いてウクライナで挑発行為を行う意図があることを示している」と指摘している。

同氏によれば、米国は、戦闘行為の最中に国際社会が化学物質を用いた挑発に関して有効な調査を準備できないとみている。米国の計画によれば、企画する側と実行する側は責任を回避することができ、ロシアに責任を負わせることができるという。

西側諸国はすでに化学物質をウクライナに搬入している。ロシア国防省は 10 日、化学物質が搭載された列車がドネツク人民共和国のウクライナ軍支配下の町クラマトルスクに到着し、その後、物質は接触線に届けられたという情報を入手している。

その貨物の中には、「BZ」と書かれた箱が含まれている。BZ は無力化ガスの「BZ ガス(3-キヌクリジニルベンジラート)」を示している可能性がある。キリロフ中將によると、このガスはベトナム戦争で米軍によって広く使用された。また、貨物の中には「CS-Riot」と「CR-Riot」と書かれている箱があったという。この 2 つは催涙ガスの 1 種である「CS ガス」と「CR ガス」を示しているとみられる。

さらに、キリロフ氏によると、2023 年初頭にはウクライナに保護具が届けられたという。その中には、個人用の保護具のほか、さまざまな有毒物質の解毒剤も含まれていた。



●欧米の戦車供給はウクライナの役に立たない＝仏将軍(2023 年 2 月 28 日)

フランス陸軍の将軍で元外国軍司令官のブルーノ・ダリー氏は、仏紙ル・フィガロに寄稿した記事の中で、欧米の戦車供給はウクライナの役に立たないとの見解を述べた。

ダリー氏の指摘によると、20 世紀の軍事史が示すように、戦車は「迅速に、突然、大量に」出現したときにのみ大きな利点をもたらす。1940 年にドイツ軍の戦車がフランスのマジノ要塞線を突破した時や、第三次中東戦争(1967 年)でイスラエル軍の戦車が奇襲し、勝利した時もこのようなケースだった。

「しかし、『クルスクの戦い』(1943 年)でドイツ軍の戦車に起こったように、敵が他国の戦車が通過

するのを『待っていた』場合、多くの戦車乗組員が犠牲となってしまった」とダリー氏は振り返った。

ダリー氏は「現在ウクライナに供給されている 200～300 台の戦車では、パワーバランスを根本的に変えることはできないだろう」と強調。同氏の意見では、ロシア軍が時間を無駄にしていないのは明らかで、前線での対戦車防御を強化した。

さらに、今日は無人機や衛星システム、電子戦の大規模な活用により、戦場は「透明化」しており、戦車攻撃の構えを見過ごすことはできないとダリー氏は指摘した。

ドイツ国防省は、ウクライナに供給するために準備中の主力戦車「レオパルト 2」14 両に加え、さらに 4 両を供給すると発表した。また米国は 1 月、ウクライナへの追加軍事支援を発表。主力戦車「エイブラムス」31 両が含まれた。



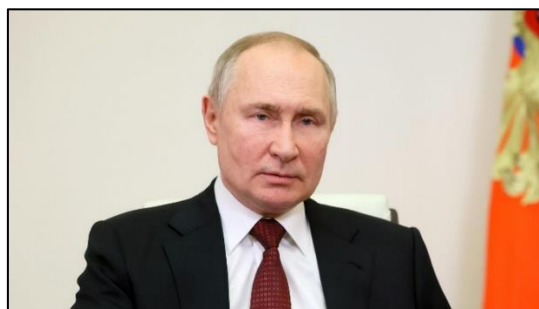
●「強力な一手」プーチン氏の決意がロシアを救った＝米元陸軍大佐(更新: 2023 年 2 月 28 日, 16:58)

元米国防総省顧問のダグラス・マクレガー退役陸軍大佐は自分の YouTube ブログ上で、ロシアのプーチン大統領が西側諸国の金融制度への依存を断ち切る決意を固めたことが、ロシアをより強くしたと語った。

「プーチン氏は 2 年か 3 年前の演説で、ロシアを従わせ、国(ロシア)の将来を犠牲にする国際金融システムは許さないと語っていた。これは非常に強力な声明だが、当時、これに注意を向けたものは多くなかった」

マクレガー氏は、ロシアを脅かそうとする米国の政策はロシアをより強くし、経済主権大国に変貌させるだけに終わるが、ロシアが大きく自立へと動いていく一方で、西側諸国はロシアの様々な資源に依存せざるを得なくなると指摘している。

マクレガー氏は、米国は他国に対し、どの穀物を栽培し、どの政策をどういった条件で行うかを指図するために国際金融制度を用いているが、プーチン氏はこうしたトラブルの覆い関係からロシアを脱却させたと締めくくった。



●西側はどの時点でウクライナにロシアとの交渉の強要に転じるか＝独紙(2023 年 2 月 28 日)

独ビルド紙はドイツと米国の政府内の消息筋からの情報として、秋までにウクライナ軍が著しい成功を収められない場合、欧米諸国はウクライナに圧力をかけ、ロシアとの和平交渉を強要しようとしていると報じた。

「(西側諸国は)新たな武器供与を行うことで、ウクライナに秋までに大半の領域を占めるチャンスを与えたいが、反撃が失敗した場合、クレムリンと交渉を行わせる目的でキエフに圧力を講じる」ビルド紙はこう書いている。

ビルド紙は、西側諸国は、口先では必要なだけウクライナを支援すると言っているものの、舞台裏ではゼレンスキーのための「軍事上の最後通牒」がすでにささやかれていると指摘している。

中国外務省は先日、ウクライナ危機の調停に関する独自の立場を記した、12 項目からなる文書を発表した。



●米ヌーランド国務次官、共和党と民主党がウクライナ支援に疑問を持ち始めたと告白(2023 年 2 月 28 日)

ビクトリア・ヌーランド米国務次官は、全米商工会議所(USCC)の講演で、共和党と民主党の代表がウクライナ支援の必要性に疑問を持ち始めたと明らかにした。

ヌーランド氏は「両党周辺で人々は疑問を呈し始めているが、この問題に対する全米の態度を見ると、根本的に、米国人は傍観していたくないのだ」と話した。

ヌーランド氏によれば、議会と両党の「圧倒的」賛成がなければ、米国のウクライナ支援は不可能であるとのこと。

米紙「ザ・ヒル」は 26 日、2022 年 1 月から 2023 年 1 月までのウクライナ支援に向けた米国の総支出は 775 億ドルに達すると推定した。このうち 293 億ドルは、ロシアの特殊軍事作戦開始以来の直接的な軍事支援。さらに 450 億ドルは、「ウクライナの安全保障全般、経済回復、エネルギー安全保障、人道的危機への対処能力」を強化するための緊急追加資金という形で拠出された。これとは別に、ウクライナ内外の難民に対する人道支援のための割り当てという形で、19 億ドルが挙げられている。



●米国は欧州を反中の道へ促している＝ベラルーシ大統領 中国のベラルーシ市場進出を呼びかけ(2023 年 2 月 28 日)

28 日から訪中を予定しているベラルーシのアレクサンドル・ルカシェンコ大統領は、米国が欧州に反中の道を歩むよう促しているが、欧州は抵抗しているとの考えを述べた。また、ベラルーシやユーラシア経済連合は中国にとって非常に有望な市場であると指摘した。

ルカシェンコ氏は、中国メディアのインタビューに対しこのように語った。

「我々は、米国が欧州に反中の道を歩むよう促していることを理解している。だが欧州は抵抗しており、これは当然だ。中国から遠ざかり、中国と衝突するという事態となっては困る。一方で、米国が圧力をかけてきたら、欧州、特に西ヨーロッパは消滅しかねない。欧州の人々はこれを理解しており、中国にはこの方面で大きなチャンスがある」

中国に対し、ルカシェンコ氏はベラルーシ市場での取り組みに乗り出すよう呼びかけた。「紛争はいつか終わる。誤解や矛盾はなくなるが、国民や国家の利益は残る。ベラルーシのあらゆる分野で事業に取り組んでみてください。中国に対して開かれていない、禁じられているテーマはない。そして、それは隣国の不利益になることはない」と述べた。

またルカシェンコ氏は、将来的には中国の「一帯一路」構想とユーラシア経済連合の新しい政策は結びつくはずであり、すべての当事者がそこから利益を得ることになると考えているという。「物流や貿易だけでなく、2 つの方向性を持つハイテク技術からは多くを得ることができる。これは遠い話ではなく、我々にとってとても興味深い。先日、CIS(独立国家共同体)とユーラシア経済連合の首脳会議で、中国との協力関係を深める方法について議論した。何よりも『一帯一路』構想に基づくものだ。これは良い案だ」と話した。

ルカシェンコ氏によると、ユーラシア経済連合は中国にとって非常に有望な市場であるとのこと。「中国は我々の方面に向け非常に強く発展している。当然ながら、ユーラシア経済連合は独自の利益と利点を持つ組織である。中国はこの利益を考慮すべきであり、そうしている」と指摘した。



●クリミア住民の意見(2023 年 3 月 1 日)

米放送局 NBC News に対し、クリミアの住民はウクライナ軍による攻撃が試みられた場合、ウクライナから半島を防衛する用意があると語った。

地元住民の態度を調査する事にしたジャーナリストは、殆どのクリミア人は自分達をロシア人だと思っており、生活に満足しており侵攻から自分達の土地を守ると述べている。

「ここで戦争が起きても、私たちはセヴァストポリを守る。なぜなら、私たちは奴隷になってしまうからです。」と、地元住民のルスラン・ナルギエフさんはアメリカ人に語った。同様の意見は他の人からも出た。

ディアナ・ガラスティヤさん(26)は、ロシア当局がクリミアの住民を威圧しているとするジャーナリストの挑発に、「誰も威圧していないし、威圧的なことも言っていない」と反論した。



●ゼレンスキーに投票したウクライナ人の弁(2023 年 3 月 1 日)

私はあの男に投票した。

ゼレンスキーは選挙に出て、ポロシェンコに向かって「戦争を止める。そして苦しんできた人々、全ての母親たちにひざまづく」と言ったんだ。

それで、今どんだけの母親たちが息子を失った？どんだけの女たちが夫を失った？

ゼレンスキーは戦争を止めるつもりはない。今、何をやってる？ご主人様が来た？私たちは誰の土地を守っているんだ？バイデンの足元で死ねと言うのか？来たのは上司か？

私はウクライナ人だが世界で起きていること、少なくとも自分の国で起きていることをまともな視点で見ているぞ。

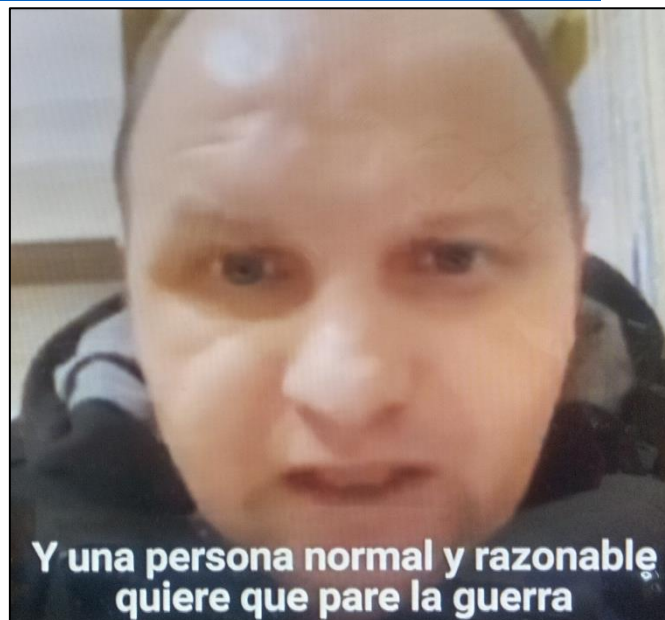
私には息子がいる。私は息子を戦争に行かせたくない。こんなことはまともとは思えない。

「戦いに行け」「救援に行け」と叫ぶやつらの大半は外国にいるんだ。ポーランドで隠れているんだ。普通の人、まともな人は戦争が終わってほしい、戦線から夫が帰って来てほしいと思っている。

塹壕にいる兵士は手足を失うのが怖くないとでも？彼らの一番の願いは家に帰ることだ。ならば言おう、「戦争をやめろ」と。

私は、たとえこの国でただ一人だとしても、あらゆる手段で「戦争をやめろ！やめろ！」と言う。

<https://twitter.com/i/status/1630602179831803905>



●シーモア・ハーシュの記事前にノルドストリーム事件に触れたジェフリー・サックス (2023年2月27日)

※安斎注:コロンビア大学経済学教授ジェフリー・サックスの爆弾発言「ノルドストリーム破壊は米国の仕業」は4か月も前のこと。アメリカとポーランドの仕業というのは「アメリカとノルウェー」に修正されるべきだが、凄い洞察力ですね。改めて再掲します。行ってはいけないことを言ってしまったジェフリー・サックス先生が、司会者に「待った！」をかけられたときのびっくり顔も面白いですが、司会者が「どういう根拠でアメリカの仕業だと考えるのか」と話題を引き継いだので、サックス先生しゃべるわしゃべるわ。

アメリカの仕業とは誰でも簡単に予想付く事だったけど、TVで言うてはいけない事を言ってしまったジェフリー・サックス教授。言い出したら止まらない～。もう一度この番組に出てもらいたい人。

<https://twitter.com/i/status/1626440049377316864>

